

湧雲

第2号

発行・北海道深川西高等学校同窓会
〒074-0012 北海道深川市西町7番31号
TEL 0164-23-2263 FAX 0164-23-2264

同窓生数
15,977名

デザイン・印刷・SALAT(株)サラト
〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel:079-284-1380 http://www.salat.co.jp

緑の学び舎運営委員会特集号



屹立する白樺

育ち花咲く事に確信を持ち一層の管理を誓ったのであります。しかし、会報1号で既報の通り鹿の食害に遭い、その後二度ならず二度三度と、伸びた芽のほとんどに被害が続きました。

ただけでした。数週間後、平野部ではとくに桜が終わった5月23日。快晴の天候の中、コモはずしの作業を開始。昨秋植えた3本の桜の最初の1本のコモをはずした時、巻いたコモの中で桜が開花しているのを確認、一同から歓声が上がる。コモはずし作業は順調に進み他の2本も新芽が出ているのを確認。更に鹿の被害から守る為、3本の足場を組み足場にネットをかけて鹿を寄せ付けないように工夫をして今期は様



来春に期待して

多く、桜の保護の為の支持木がスノーモビル等で数本被害を受けているのを確認した。作業を終えた数日後、確認に現地へ行くこと3本の足場が下り斜面に向かつて半数が倒壊。残りも斜面を移動している。さては鹿がネットにでも引つかかったのかと色々調べてみると前日の風で斜面に立てた柱が斜面に沿って倒壊したものと判明。足元を固定しなかった為の不覚と反省、後日復旧作業と固定作業を併せて実施する。この作業の時に会場の側の斜面に木全体が真っ白になって咲いている穂状の花をつけたシウリ桜を確認した。この作業を行わなければ判らなかつたので今回の作業に感謝した委員長でした。この木の周りに沢山のシウリ桜の苗が生まれていました。この苗を今後はあちこ



作業前



作業風景

委員一同、同窓生の皆さんの声援と協力を励みにピンクの山並みを夢見ながら今後の管理を続けていきます。変わらぬご支援よろしくお願いたします。桜の花の下で同窓の夕べをやりましょう!!



桜咲く

2008年の秋、同窓会の最重要事業として深川西高等学校開校70年記念協賛事業に合せて桜の植樹事業「桜花爛漫」を多くの同窓生の参加によって盛大に開催いたしました。春の訪れと共に街から音江山の中腹を眺めた時にピンクの桜が帯状に花咲く森を育て、同窓生の憩いの場所として未来につないでいく事を夢見て事業に着手いたしました。

数度に亘る管理会議の中で様々な案がでましたが最終的に「食害に遭わないような大きな桜を植える事は出来ないのか?」との大西会長の発案に秋の植樹に合せて3本の5年生木を植えて経過をみる事にいたしました。記念植樹の桜の補植分として養成中だった木も秋に被害木と交換いたしました。雪の被害や寒さの被害から桜を守る為、晩秋にコモ巻き作業を行い、併せて植樹地の下部から上部高台へ遊歩道として入ることが出来るように側溝に排水用の土管を埋設して環境整備も行いました。こうして雪が静かに降り積もる中、70本の桜は半年間の眠りにつきました。昨年はこのような経過を経て、委員一同春を心待ちにいたしました。



鹿の被害

は少ない(新芽は別としてだが)。大きく伸びた根曲がりタケや草や木やタラノキの中を歩くので作業をする我々人間は大変である。鹿も同じ気持ちになつてくれえ、と思いがからの作業であつた。

作業を終えた数日後、確認に現地へ行くこと3本の足場が下り斜面に向かつて半数が倒壊。残りも斜面を移動している。さては鹿がネットにでも引つかかったのかと色々調べてみると前日の風で斜面に立てた柱が斜面に沿って倒壊したものと判明。足元を固定しなかった為の不覚と反省、後日復旧作業と固定作業を併せて実施する。この作業の時に会場の側の斜面に木全体が真っ白になって咲いている穂状の花をつけたシウリ桜を確認した。この作業を行わなければ判らなかつたので今回の作業に感謝した委員長でした。この木の周りに沢山のシウリ桜の苗が生まれていました。この苗を今後はあちこ

ちに植樹するべく秋に向けて検討しています。



桜咲く丘から

桜花爛漫を夢見て・・・

同窓会総会開催！

第六十七回の総会が、五月二十四日ブラザホテル板倉にて須藤校長、新任の石見教頭、加藤事務局長ご臨席の中、同窓生五十名が出席して開催された。会長挨拶の後、校長より挨拶をいただく。昨年の生徒進路状況、部活動等々の報告がなされました。引き続き会長が議長となり議事進行し、次の議案が審議されました。



- 一、平成二十一年度事業報告及会計報告
- 二、監査報告
- 三、平成二十二年事業計画及予算案
- ① 同窓の集い実行委員会構成の件
- ② 緑の学び舎運営委員会事業計画について
- ③ 同窓会会報の発刊について
- ④ 学校前庭に桜の植樹の件について
- ⑤ その他
- 四、その他

二十一年度に関しては事業報告通り承認され、特別委員会報告では桜の記念植樹のその後の経過報告がなされた。昨春秋に植樹した三本の桜のうち一本は桜が咲いたことを画像で報告。昨年の鹿の食害で越冬できた桜が半分程になったこと、今秋、枯死した桜の補植を検討している事もあわせて報告する。



今年度の事業計画の審議にはいる。
今年度も同窓の夕べを開催の承認を得る。実行委員は末尾「三期」で構成いたします。

同窓会会報2号の発行を如何様にするか諮ったところ、送料だけでなく八十万程かかるため創刊号発行時の余剰金の範囲

内で会報発行事業を行うのが妥当であるとの承認をいただく。よって今回は協力金のご協力を戴いた方のみに送付する事で承認される。協力金会計報告は別項を参照。
昨年、同窓会に四回生の宮脇 敬氏より高額の寄付を賜りました。同窓会で有益に活用するため別会計を開設し使い道を明確にする事で承認を得ました。
緑の学び舎運営委員会については次項の提案どおり承認された。

- ① 鹿の被害対策の継続
- ② 桜の補植の件
- ③ 宮脇氏のお気持ちを持ち長く留めるためにも校舎前庭の桜の樹の更新を図る事にし、八重桜の「釧路八重」を植樹する事で承認を戴く。
- ④ 新規事業として卒業記念植樹を同窓会林において開催する事で同窓会、学校の承認を戴く。
- ⑤ 将来の同窓会林の樹木の有効活用のために国の補助を受けて同窓会林全体の間伐を行う事で承認を得る。同時に作業道等の整備も行う。
- ⑥ 昨年同様、同窓会林及び修練道場への訪問事業は参加者がいないため今年度も中止し、スキー場からの返還地への植樹、植林を中心に行うように事業内容を方向転換していく事になりました。維持管理は継続して行う事といたします。

HPの開設は二十年八月に運用開始。順次内容を充実していくつもりです。同窓生からの懐かしい情報なども寄せられています。又、深川市「深ナビ」のモール情報も継続して掲載していきます。

総会の議長を会長が行っているのはおかしいので会場から議長を選出するように改正すべきとの提案がなされ、規約を見直して来年の総会に提案してほしい、と総会において承認されました。
他にも貴重な提言、意見をありがとうございます。



平成21年度 決算報告

収入の部

項目	金額	備考
前期繰越金	1,448,664	
入会金	231,000	154×1,500円
振替金		
雑収入	18,159	
合計	1,697,823	

支出の部

項目	金額	備考
総会費	88,410	
役員会費	18,530	
会議費	58,110	
交際費	121,340	饗別・激励
事業費	1,057,600	吹奏楽他・CD・記念誌
通信費	6,220	
印刷費	4,395	
雑費	5,502	
次期繰越金	337,716	
合計	1,697,823	

北海道立深川西高等学校同窓会「緑の学び舎運営委員会」会則

- (名称)
第1条 本委員会は北海道深川西高等学校同窓会「緑の学び舎運営委員会」という
- (事務局)
第2条 本委員会は事務局を事務局長宅におく
- (目的)
第3条 本委員会は未来永劫に亘って母校を緑豊かに維持することで在校生の学び舎の環境を守り、同窓生、在校生の自然を守る気概を醸成し、愛校心の高揚・保持を図ることを目的とする
- (事業)
第4条 第3条の目的を達成するため下記の事業を行う
1、母校の植栽状況の把握
2、記念樹の選定のアドバイス
3、同窓会林の維持、管理
4、その他、本委員会の目的達成のため必要な事業
- (経費・会計)
第5条 本委員会の経費は、同窓会の役員会の決議をもって充当する
- (会議)
第6条 本委員会は恒常的な会務運営処理のため次の会議を開催し、結果を役員会に報告し承認を受ける
1、定例委員会を年に一回開催する
2、必要時には臨時に委員会を開催することができる
3、委員会には同窓会の役員が参加して意見を述べる事ができる
- (委員と任期)
第7条 本委員会に下記の委員を置く。委員の任期は2年とし再選を妨げない。委員は同窓会長が指名する
(1) 委員長 1名 委員の互選による
(2) 副委員長 若干名 委員長の指名による
(3) 委員 若干名
(4) 事務局長 1名 委員長の指名による
- (委員の任務)
第8条 委員の任務は次のとおりとする
1、委員長は本委員会を総理する
2、副委員長は委員長を補佐し、委員長事故ある時はこれを代理する
3、事務局長は委員とともに本委員会の会務を司る
- (附則)
第9条 本委員会会則の改正は総会の決議による
第10条 本委員会会則は平成20年6月6日より施行する

〈経過〉

20年記念誌に開校時の古野俊清校長は次のように記している。

昭和十三年五月の頃、高さ四mの唐松十本を深川町水源地から道路沿いに移植したが全部枯死してしまった。秋になって宇佐美氏の所有地から3mの高さのドイツ赤松を前庭の一隅に移植したがこれが現在の植樹第一号である。続いて幾本か植えたが、皆枯死してしまった。そこで窮余の一策にと昭和十四年春ドロヤナギを挿し木したが、第一回生の思い出を込めて今は亨々とそびえているであろう。

植樹は合計五千四百余本であったがこれらは皆、深川町や一己村の有志の寄贈によったもので庭園の中で大切にされていたものもある。

と、記されているように開校時の「緑豊かな教育環境を！」との理念を受け継ぎ、戦時下で勉学にいそむ時間も汗と労力を奉仕して修練道場を建て、学校林の管理を行ってきました。先輩は立ち木を運び校庭に植えました。そんな開校時の思いを未来にも伝えたい。学校周辺の教育環境ではドロの樹を周囲に配置し、緑豊かな前庭は落ち着いた雰囲気をかもし出していました。今、ドロの木を植えた世代や庭にオノキの木を植えた世代は高齢先輩ですが何かを語るときには必ず開校当時の苦難の思い出が語られます。しかし、昔の困難辛苦も今となってそれは懐かしい思い出として蘇ってきます。時間の経過と共に校舎周辺の植生の現状は老齢木が多く倒伏しやすい樹もあり、長期で継続的に監視、点検、更新する必要が出てきました。

第一はこのことが委員会発足の発端です。

第二には、先輩が抱いたように、あるとき撒いた種は、いつかは芽が芽生えます。この思いを未来につなげたい。そこで卒業時に「同期の樹」の植樹を行う記念植樹事業を委員会に組み込みました。ずーっと先の時代に過去を振り返ることがあった時、きっと学校林の存在と植樹した時の記憶を振り返る時があるだろう。そんな思いを持った何人かの後輩がきっと育っているはずだと思いを馳せています。同窓会林を未来の同窓生共通の財産として環境保全を念頭に整備していくことが必要だとも思います。

2007年10月10日 準備委員会発足
2007年11月～2008年3月 学校前庭の危険木除去
2008年 6月 6日 「緑の学び舎運営委員会」が総会にて正式承認

2008年10月19日

開校70年記念で桜を70本植樹

協力者107名 参加者43名

2009年 6月23日

桜の開花を確認

2009年10月17日 鹿の被害に遭ったため記念植樹地に桜の成木を3本補植

〈事業〉

委員構成

委員長	1名
副委員長	1名
委員	3名
事務局	1名

〈同窓会林及び学校全体の緑化構想推進〉

- 1、長期計画で学校林や校舎の植栽の管理、検討を行う。
- 2、管理主体の北海道教育委員会や本校との緊密な連絡、連携、協調を図る。
- 3、費用負担、責任分担、管理主体など諸問題があるので同窓会の特別委員会として新設する。
- 4、「湧雲の白樺」「修練道場跡」の保存、管理、PR活動
- 5、宮脇記念桜植樹の他に白樺等樹木の更新を行う。
- 6、同窓会林設置のあり方を明記
同窓会会長の個人名義で管理されていること
使用目的の確立

〈卒業記念樹選定委員会〉

- 1、卒業時の記念樹「同期の木」「期になる樹」を設定。
クラスから1名ずつ選任
同窓会林の学習、樹種の決定、植樹の日程・・・テキスト作成
リストの作成（委員会、学校）リストの中から選ぶ
同窓会林の中に同期の樹を植林し、プレートを作成（〇〇期生〇〇記念樹）
- 2、将来的に同窓会林を振り返る種となる。同窓会の継続的な推進にも必要
- 3、情操教育の推進、緑化環境保護の機運醸成
- 4、植樹を通して先輩との交流をはかる。（同窓会林や植栽地がわかるように）
同窓会と1回は記念樹検討会議を持つ
- 5、同窓会が森林組合等と連携しながら作業をサポート。苗木購入経費、植林作業を補助
送迎、食事、ヘルメット、スコップ、灌水、保険

深川西高等学校「緑の学舎運営委員会」

<事業報告>

2009年（平成21年）

- ◎ 21. 5. 10 桜のコモはずし（岡部・溝口・平田・事業団）
- ◎ 21. 5. 25 コクド・市役所等と植生の確認調査（溝口）
- ◎ 21. 6. 16 第1回運営委員会 市場にて（岡部・平田・三上・溝口）
管理スケジュール確認
秋の植樹について
鹿の被害対策について
※ この間、数回現地に被害確認に入る
- ◎ 21. 9. 3 第2回運営委員会・市場にて
（大西・岡部・平田・坪田・竹林・三上・溝口）
植樹の被害確認と対策・・・大きい桜の樹で対応
- ◎ 21. 10. 14 記念植樹下準備（岡部・溝口・平田・事業団）
土管理設等の環境整備も同時開催
- ◎ 21. 10. 17 植樹（岡部7・平田6・溝口18）
（大西洋太28・成田雅敏28・篠原 有10の6名）
来春、開花しそうな成木を3本植樹、コモ巻き

2010年（平成22年）

- ◎ 22. 5. 10 隣地境界地籍調査（岡部・溝口・組合3名）
- ◎ 22. 5. 19 学校の植栽下見を兼ねて第3回運営委員会
（岡部、平田、坪田、三上、溝口）
- ◎ 22. 5. 20 学校と記念植栽、記念碑。卒業記念植樹について相談
（大西会長、岡部、溝口）
- ◎ 22. 5. 23 コモはずし。鹿対策で保護柵設置作業・・・快晴!!
（岡部、平田、坪田、大西洋、成田、佐藤、溝口）
3本のうち1本の桜の開花を確認
- ◎ 22. 6. 20 保護柵が風で倒壊したので復帰作業
（岡部、佐藤、松本、溝口）
- ◎ 随 時 校舎前庭のユリノキの防寒、防雪対策実施

<事業計画>

【校舎周辺】

- ◎ 母校の植栽木の生育、安全等の確認
- ◎ 宮脇基金を顕彰して桜の樹を記念植栽
・・・将来は現在の桜と更新する予定

【記念植樹地】

- ◎ 宮脇基金による記念植樹の追加と整備
- ◎ 現地整備 駐車場の確保・植栽周辺の環境整備
- ◎ 植樹後の管理作業
- ◎ 卒業記念植樹事業の開設

【同窓会林】

- ◎ 国の補助事業で自然林の間伐事業と作業道の設置
- ◎ 希望者対象の修練道場、湧雲の白樺見学ツアー



ユリノキ



順調ならば

同期会情報

(カッコ内は情報提供者・敬称略)

〈旧中一期〉 八十四歳からの年齢になり札幌中心で時々近況報告とか旅行会を有志で開催していたが年々寂しい状況です。

〈旧中二期〉 (旧制深中2期会)

平成十四年を最後に同期全員の開催を取りやめとしたが二、三年ごとに有志で開催していましたが。元気の会員がいよいよ少なく会として集まりは不可能な状態です。(横山 猛)

〈旧中三期〉 (旧制深中3期同期会)

毎年開催。十七年には記念誌を制作。十九年も九月札幌にて。二十年、二十一年も九月札幌にて開催。今年も開催予定。(三浦巧丸)

〈旧中四期〉 (旧制深中4期生)

平成十五年中島武敏元代議士を囲んで同期会。二十年中島武敏元代議士を囲んで(ふれあい会館)集まる。全体の集まりは高齢の為、開催していません。(前田正太郎)

〈旧中五期〉 (旧制深中第5期会)

毎年開催。十五年鎌倉。十六年函館。十七年札幌。十八年美唄。十九年六月深川。十月

なり寂しさを感じるようになりました。五月に札幌支部の総会も開催され深川からも数名参加しました。(高谷護郎)

〈七期〉 (深西7期同期会)

三年毎に旭川、深川、札幌と持ち回りで開催している。十四年深川で開催、板倉に六十人参加。十七年は五十年を札幌にて八月開催、五十人参加。満田・津田先生出席す。二十年旭川。次回二十三年は深川開催。(請川公一)

〈八期〉

不定期開催。二十年六月札幌第一ホテルで開催。高齢となり最後の同期会と言うことで六十五名参加。それ以後は各クラスやグループで少人数で開催。二十一年八月深川在住者九月には札幌で開催した。(中野艶子)

〈九期〉

十年深川・十二年旭川・十四年札幌・十六年北竜。十八年東京。毎年開催の意向を受けて十九年秋に定山溪、小樽。十九年三月深川在住者で開催。二十年九月深川開催・「ゆう&ゆ」に四十七名。満田先生出席。今年は全体の同期会、市内在住者のミニ同期会、市内在住者でのパークゴルフの会を開催。(倉嶋克郎)

〈十期〉

五年に一回の開催
十五年六月に四十五周年記念として北広島で開催。以後開催なし。昨年の同窓の集いに秋田から松本勤君が駆けつけてくれ一時を過ぎしました。(星野友雄)

〈十一期〉

十二年八月還暦記念を深川で開催、十六年は八月札幌七十名。十八年十月深川で開催。二十年札幌。今年は深川?

〈十二期〉 (西高35年卒同期会)

十三年秋、還暦同期会を開催、参加五十八名。十八年小樽にて開催。今年六月深川にて開催。別欄に詳細掲載(板倉克宏)

催しています。十二年六十名参加(深川ホテル)。十六年は八月に開催した。二十年八月深川で開催。十一月東京組が開催。(小川広見)

〈二十一期〉

十四年八月。久しぶりの開催です。十八年八月開催(梶川 寛)

〈二十二期〉

十二年卒後三十年で開催。参加六十名(日の出)。二十年八月札幌開催。(寺岡義人)

〈二十三期〉

十三年八月に三十年を記念して札幌にて開催。出席者八十余名。

〈二十四期〉

十四年札幌、十六年六月深川(日の出)にて開催三十五名。十七年六月札幌にて連続開催。二十年六月「まあぶ」にて開催

〈二十五期〉

十四年十一月に札幌にて開催 七十名参加

〈二十六期〉 (49年卒業同期会)

十六年は卒業三十年で九月札幌にて開催、百名参加

〈二十七期〉

十六年一月二日開催し七十四名参加

〈二十八期〉 (第28期同期会)

三回目となる同期会を十七年八月板倉にて開催。百名を超える参加あり。五年ごとに開催。第四回目の同期会を二十二年八月札幌にて開催。(増永博志)

〈三十一期〉

卒業二十年を十一年に深川で開催。百十名。卒業三十年を記念して二十一年に出席者八十名で開催。長尾、戸田、沢村、渡辺、香川先生参加。大いに盛り上がり楽しい一時を過ごしました。(宮沢孝司)

支部報告



旭川支部 総会報告

《参考》

第一回 五十三年 一八〇名
第二回 五十五年 一二三名
第三回 六十二年 一一六名
第四回 平成十三年 一二〇名
この後開催がありません。

小樽支部

支部長・秋山義昭氏(高十三)
現在二十二名

東京支部 総会開催

第十七回総会は十九年九月二十九日開催。当番期は四十九年(26)・五十年(27)卒業期が担当しました。参加者は七十一名。

第十八回総会は二年半ぶりの開催になります。二十二年度六月十九日に開催。当番期は五十一年(28)・五十二年(29)卒業期となりましたが幹事が構成できず今

台湾へ修学旅行。二十年には開校七十周年記念に合わせて式典終了後開催。二十一年以降は津田氏が亡くなったため確認とれず。

〈二期〉

平成六年岩見沢市、七年滝川市、八年幌新温泉一泊、九年箱根・東京二泊、十年深川市、十一年定山溪温泉、十二年滝川、十三年岩見沢、十四年深川、十五年札幌、十六年滝川、十七年札幌開催を最後に取りやめ（中村隆志）

〈二期〉

（旧制中学7期・深川西高2期の集い）毎年秋に開催。東京、札幌、深川持ち回り。十二年は卒業五十年で札幌、十三年はホテル館、十四年は東京、十五年は札幌、十六年は深川。二十年「喜寿の集い」をもって期友の会を打ち上げしましたが道内同期生のミニ同期会を札幌、深川で行っています。（林 正衛）

〈三期〉

東京は毎年開催。札幌は随時開催（島田克之）

〈四期〉

（深川西校第4期生同期会）札幌が中心になって毎年開催しています。十六年札幌は六月、東京・四葉会は一月に開催。十七年は六月札幌、十八年札幌開催。十九年五月定山溪で、卒業五十年で偶然にも五十五名が参加。二十年六月札幌。今年の六月「喜寿を祝う同期会」を開催。同期生全員に案内するのは今回で最終回になります。有志による継続実施を考えています。（佐藤範子）

〈五期〉

不定期開催

〈六期〉

（西高29会）

深川組は毎年同期で旅行を実施してきた。札幌勢は年に六回集まり、東京勢は年一回集まる。全体での開催は十七年札幌が最後。深川支部は二十年六月に開催。二十一年も六月。いずれも二九会なので二十九日に開催している。

今年は都合により二十九日開催が出来ず十九日に開催した。参加する顔ぶれも少なく

〈十三期〉

（三六会・サボロウ会）

H十年HP開設 ML（倉山昭男）

<http://www2.big.or.jp/~yycclub/>

<http://www.egroups.co.jp/group/36KAI>

十四年六月還暦記念同期会を開催。板倉。二十年開催。今年六月秩父別温泉「ゆう&ゆ」で開催。詳細別枠にて（吉川 保）

〈十四期〉

十六年五月還暦同期会を開催。深川ホテル二十年二月天人峡パークホテル。二十一年九月十三日開催。詳細別枠（堀川勝之）

〈十五期〉

（深西38会）五年毎に開催している。十年は十一月、十五年は札幌で開催。十七年十月九日開催。十九年九月旭川開催。二十一年十月定山溪グランドホテルで開催。六十三名が出席。金倉、田中先生が元気に出席してくれました。次回は二十四年に深川での開催になります。（杉山一成）

〈十六期〉

（深川西高16期卒業同期会）五年毎に開催。十一年から三年毎の開催にしました。二十年九月開催。次回は二十三年です。（星野 孟）

〈十七期〉

（高17期同期会）十二年に板倉、十七年八月板倉で開催。四年に一回（濱田靖夫）

〈十八期〉

（猪子会・いのね会）十七年九月札幌にて開催六十名。二十年十月、富士屋にて開催六十名。東京組は毎年開催で二十年は九月。札幌組は随時集合。深川組は毎年夏、冬と開催している。次回は二十二年札幌開催決定（深沢倬子）

〈十九期〉

（深川西高19期卒業同期会）五年に一回の開催。十七年旭岳のふもと湧別温泉で開催。登山も兼ねた。二十年は「ゆう&ゆ」で還暦同期会を十月開催（藤川克紀）

〈二十期〉

（深川西高第20期同期会）四年に一回の夏季五輪開催年に合わせて開

〈三十四期〉

卒業二十年を十四年に深川で開催。

〈三十五期〉

卒業十五年を十年に深川で開催。

〈三十六期〉

（深川西高36回生同期会）卒業二十年で十六年一月板倉にて開催、九十九名参加。

〈三十七期〉

（渡辺哲男）卒業二十五五年を二十一年一月に開催。十四年開催 板倉

〈三十九期〉

十三年二月、日の出会館で開催参加、四十四名

ご協力戴いた期の幹事の方には大変お世話になっていきます。

例年通りですが、事務局では記載の期以外把握して居ません。きつと開催しているところもたくさんあるのだらうと思います。情報の収集に努めていますし、各期の協力者を探し支援を頂きながら、それぞれの期の動向が今以上に判明するように努力しています。なかなか望みがかないません。情報をお寄せいただければより充実した会報になるのです。が…。

又、それぞれの期の幹事の方には最新の情報を届けて頂ければありがたいと思います。同窓の夕べの実行委員会がきつかけで同期会を開催したところもあるようですから、それなりに役にたっていると思っておりますので宜しくご協力ください。



回も五十年（27）が担当しました。若い世代への橋渡しが重要な課題です。

昭和二十七年から三十三年まで在職された、津田（旧姓満田）先生が兵庫県龍野市から参加されました。参加会員六十五名。又、深川在住、昭和五十年卒業の中川夫妻が上京し、東京で暮らす平成十二年卒業の長女と平成十七年卒業の長男と親子四人で参加されました。嬉しい事です。

旧制中学二十年卒業の出席者最年長の村中先輩は本当に元気です。山田吾一先輩もお元気です。相変わらずの吾一節をお聞きしました。（中村欣也）



滝川北斗会 総会開催

今年二月十四日、第四十七回の滝川支部総会が開催された。毎年定期的に開催されていてなかなか盛況。大西会長が山下市長と共に出席。滝川、三浦華園にて。出席会員十三名。

12 回生の夏

深川開催の還暦同期会から9年。5年前の小樽開催をはさんで再び懐かしい顔、顔、顔と再会。おっと！五十年ぶりの初顔参加者も数名居ました。毎回のことながら「貴方誰？」は禁句なので受付で参加者自身に名札を取ってもらう。指の先がどこに行くのか：瞬間の緊張感と歓声。開催時にいつも繰り返される風景です。

同期生は二百五十名。内、死亡、不明は約六十名に至ったが百八十名には「卒業五十年記念同期会」と銘打って案内を出しました。案内を出して改めて札幌近郊の在住者が多いことに気が付く。次は道外、深川を中心にした在住者は三十人位と意外と少ない。呼びかけに呼応した参加者は六十名。

受付開始は15時30分。時間が経つ度に話の輪が広がる。17時に木戸武宣君の挨拶で一次会開始。盛り上がりが伸びて20時過ぎまでかかる。20時30分から同会場の別室で雰囲気を変えて二次会

に突入する。明かりを少し落とし、キャンドルを灯しテーブルも低めにしてカラオケも少しゴージャスなステージをセット。さながら高級クラブの雰囲気に参加者一同時間の経つのを忘れてしまう。汽車の時間の都合で中座した数名を除き深夜12時まで盛り上がった。



マザーズカントリー

ここには歴代の校長の写真が飾られ校長から説明もして戴きました。窓際に置いてある故・秋山先生作の校舎のミニ模型に一同歓声を上げる。模型のあちこちを指差して当時をしのぶ。更に新校舎の中を案内して戴き須藤校長には大変お世話になりました。本当に気持ちのいい対応に心に残る学校訪問になりました。廊下で出会う生徒は元気に挨拶をして戴き、礼儀正しく

気持ちのいい対応に先生方の生徒への教育が行き届いていることを肌で感じる事が出来ました。

バスはグランドの横を通って拓大の前を通過、バス内では草原君がにわがガイド嬢となり、学長だったことや、深川に拓大が存在する意義や活

動内容をアナウンスしてくれる。バスは進む丸山へ。ここで展望台から眼下に町並みを望み、しばし展望を楽しむ。そのまま丸山寺に赴き新しいお寺の本堂の地下に作られた「胎内巡り」に挑戦する。真つ暗な中を手探りでジグザグの廊下を進むと本堂の御本尊の真下にある胎内本尊にほのかな明かりを見出す。ありがたしいほのかな明かりであった。ここでそれぞれ思い思いの合掌。みんなどんな思いが過ぎつたのだろうか。更に暗い道を進んで明かりが見えたとき胎内巡りは終了しましたが敬虔な気持ちになったひと時でした。

バスはマザーズカントリーへ。ここで昔よろしく遠足など思い出しおにぎりをほおばる。曇りながらも眺めも良くこれ又満足していただけでした。眺めついでにトトロ峠に移動して別の角度から深川を展望する。先ほど眺めた丸山も見え。ふるさとを実感してもらったひと時でした。その後は噂の道の駅「ライスランドふかがわ」に立ち寄りお土産などの買物をして深川駅に着きました。これにてツアー終了です。今回、何故か集合写真を撮らないことで合意しましたが、これは女性陣の強い要望ですのであしからず。(板倉克宏)

13 期同期会 36 会総会参加

6月21日、深川西高校同窓会東京支部の総会と同じ日にぶつかつてしまったが13期生同期会の「高校卒業50周年記念36総会」に出席。会場は秋父別温泉「ゆう&ゆ」。

恩師の戸田輝夫先生、田中芳雄先

深西三六会 第13期(昭和36年卒)



13 回生しおり表紙

野と高校の開校70年記念植樹碑を拝見させていただきました。山頂の沖里河山の展望台は石狩平野を眼下に360度の

生他、50名の同期生が集いました。話に花が咲き旧交を温め、懐かしふるさとを回遊した日々でした。音江山ハイキングコースの地図を片手に立ち寄った所は、もう5、6回は眺めたトトロ峠。深川市を眼下に見下ろすには素晴らしい所と再度実感。更に足を伸ばし山の中へ。ハイキングコースは今回2回目でしたが、途中の林から垣間見る石狩平



36 会宴

同期会

パノラマはふるさとを見直す絶好のコースと思います。活気あふれた土曜市場を見学。買い求めた「笹弁当」と「プラム」を買って、石狩川の川べりでおいしく味わいました。
(倉山昭男)

14回生の夏

2009・9・12〜13・14

14回生 プラザホテル板倉にて先生3名(大西幹男、武部清治、森谷長能) 同期76名合計79名にて盛大に開催しました。

12日は同窓会の「同窓の夕べ」に15名が参加。二次会も開催しました。翌日、「ふるさとの街みて歩き・味めぐり」を開催。宿泊者は秩父別温泉ゆう&ゆから板倉へ集合。15時から同期会に突入。二次会から三次会を経て終了。

翌日は希望者のみでのパークゴルフ大会にゴルフ大会とそれぞれ楽しむ。三日間本当に楽しい一時を過ごしました(坂無志津子)

深川西高等学校

野球部OB会 活動紹介

深川西高野球部OB会(以後 深川西野球部OB会)は平成13年夏の選手権北空知予選において深川西高校がブロッコ優勝し北・北海道大会に進出した際に初めて正式に発足しました。

それまでの十数年間は野球部の活躍も砂川北・滝川西の両校に押され気味で各地に散らばる野球部先輩OBは苦渋を舐め続けていた感がありましたので、久々の全道大会出場に我々OBこそが飛び上がり喜んだのを覚えています。

練習用品贈呈



援を目的に北空知在住のOBに声掛けをし、桜井英夫(S41)さんを会長に佐藤賢治(S47)さんを副会長に決め正式に深川西野球部OB会が発足し、以来全道全国のOBに会費協力を募り運営をしてきております。また総会は、恒例となっている「深川西高校 同窓の夕べ」の開催日に合わせて開催しております。

発足以来、桜井会長と会計幹事の増永(S50)は10年間10チームの予選からのほとんどの試合を観戦させていただきOB会からの飲物の差し入れを持参し選手を激励しています。また、年に1度用具の寄贈を目標としているのですが、予算的に辛いものもあり最近ボール5ダースを

寄贈するにどうもっておりません(笑)

平成18年の春・夏連続の全道大会出場の際にはOB会と活動支援後援会よりバッティングマシンを寄贈させていただき、簡易夜間照明設置の器具寄付や工事、ビニールハウス式の屋内練習場設置

の際には佐藤光司(S48)さんの土木工事や西口(S60)さんの電気工事などで支援をさせていただいています。

今年の夏も7月4日 地区予選決勝 対滝川西高戦は 1-2の涙の

惜敗で終わりましたが、また11チームの後輩球児の伸び伸びしたプレーと活躍をみせてくれるでしょう！

記 増永(S50卒)
次号は吹奏楽部OB アレグロメレを紹介します。

鉄をも溶かす炎を燃やせ。燃えていく同窓生紹介

学生の歌が歌い継がれてきました。かなり過激な歌詞でしたが湧き上がるような闘志が湧いてきた記憶もあります。打ち破れそうもない厚い壁を突き抜けていくような気概を持ったこともありました。

今回から鉄をも溶かし炎を燃やし続けて活躍する同窓生を紹介することにいたします。様々な分野でご活躍の方ばかりですが、今号は最近活躍中の小説家黒木 亮さんを紹介します。

次号以降は同窓生推薦の方をご紹介したいと思いますので「この方!」と思う方をお知らせください。

黒木 亮 (本名・金山雅之)

1957年 秩父別町生まれ。52年3月卒業(28期生)

早稲田大学法学部卒業。三和銀行に入行。海外派遣制度でカリフォルニア・アメリカン大学へ留学、修士号(中東研究科)取得。都市銀行、証券会社、総合商社に23年余り勤務し、国際協調融資、プロジェクト・ファイナンス、航空機ファイナンス、貿易金融など数多くの案件を手がける。

総合商社在籍の2000年、大型シンジケートローンを巡る

攻防を描いた「トップ・レフト」でデビュー。退社後、経済小説に専念し現在に至る。

【作品】

「トップ・レフト」都銀vs.米国投資銀行「トップ・レフト」ウォール街の鷲を撃て「アジアの隼」「虚栄の黒船小説エンロン」「青い煙気楼―小説エンロン」「シルクロードの滑走路」「カラ売り屋」「貸し込み」「巨大投資銀行」「エネルギー」「排出権商人」「リストラ屋」「トリプルA 小説格付会社」

お勧めは「冬の喝采」

早稲田大学時代は競走部に所属し、「箱根駅伝」には2年連続出場し、第55回大会(1979年)では、3区のランナーとして2区の瀬古利彦さんからトップで棒を受け取り、首位のまま4区へ繋いでいる。競走部時代の瀬古利彦さんや中村清さんのエピソード、自らの陸上競技人生に関してはこの「冬の喝采」に詳しく書かれている。中学2年から大学4年までの大学ノート8冊の練習日誌をもとに書いた、自伝的スポーツ小説。本人も実名で登場している。

第54回

コーラス大会

プログラムより抜粋

うるはしの5月に歌おう

校長 須藤 均

5月になると、いつも思い出す歌がある。遠い昔、高校1年生の春、音楽室から普通教室にこんな歌声がきこえていた。「うるはしはるのほなよ。さらにうつくしいきみ…」作曲者も作詞者も誰か定かではない。その曲を最初に耳にしたのが国語の時間で、教科担任の先生は「詩人は、ことばを探している。詩の中に詩人がこの詩をつくるきっかけとなったことばがある。それを探してみるといい。」といって草野新平の詩を読み出した。これもまた、詩の内容も覚えてもないが、詩の中に「かのこまだらの…」という部分があった。生まれて初めて耳にした単語だった。「かのこまだら？」なんだろう。不思議な音だった。質問すると先生は黒板に「鹿の子まだら」と書き、山肌に残る子鹿の背中のような雪の状態と説明した。それ以来、5月になると、「うるはしはるのほなよ」と「かのこまだら」が頭の中に連想ゲームのように必ず現れてくる。私の中ではこれらが芽を吹くと、自然界でも背の高いチューリップが咲き、水仙が咲き出し、風にそよぐ「うるはしい5月」となるのだ。

さて、この「うるはしの5月」にあるコーラス大会は、今年で54回を迎える。自然の営みの中では「春の躍動」「秋の哀愁」となる。「躍動の春」に合唱の大会があるのは、生き生きとした表現活動を保障するものにはかならない。クラスが出来上がったて一ヶ月半あまり、練習期間は2週間程度。でも君たちや卒業した先輩たちはやってのけてきた。それはきっと、一人ひとりのもつ文化に対する意識の高さに由来するのだろう。そしてそれは先輩や地域の皆さんが、学校文化としてともに創造してくれているのかもしれない。単に現役深川西高生だけの文化ではないことは想像に難くない。

ともあれ、今年も全校生徒が緊張と楽しい時間を共有してほしい。コンクールではあるけれども表現することを楽しんでもらいたい。そして、聴いている人に合唱を通して、自身自身と仲間の気持ちを訴えてかけてほしいと願う。

少しでも妥協や安易な価値観が入ると、文化はすぐに壊れてしまう。感動は真剣に取り組んだ時間の分だけ深くなると言う。「うるはしい5月」に、全校生徒の合唱を聴くことが出来る喜びを心待ちにしている。

(5月6日記)

第54回のコーラス大会の連合課題曲は「河口」でした。

他に12クラスによる12曲のクラス自由曲のハモニーが会場一杯に披露されました。

54年の歴史の中では存続の危機に陥ったこともありましたが、コーラス大会のハモニーは今年も引き継がれました。

第7回

深川西高等学校吹奏楽局定期演奏会開催

2010年3月22日 文化交流ホール「み・らい」にて



昨年の東西合同の第九の演奏会に力を注いだことで例年の定期演奏会の時期がずれてしまいました。又、時期が3月ということで局員も様々な事情を抱え編成も危ぶまれましたが、吹奏楽局OBの協力を得て編成を維持し盛況のうちに終了しました。

インターハイ記事

◎バドミントン女子団体の部、全道を制し沖縄でのインターハイへ

6月に名寄市で開かれたバドミントンの全道高校大会女子団体の部で初優勝を果たし7月28日から沖縄県糸満市で開かれる「美ら島(ちゅらしま) 沖縄総体」への出場を決めました。(出場者は高体連成績に詳細) 大西会長から出場する選手、監督に「健闘を祈る」との願いを込めて祝金を贈りました。



羽球 全国へ

◎全道高校陸上大会で齋藤悠也君が走り幅跳びで2位。沖縄でのインターハイへ

6月に札幌厚別公園競技場で開催された走り幅跳びで2位に入り7月28日から沖縄県でのインターハイに出場を決めました。(記録詳細は別項記載) 大西会長から齋藤君に「健闘を祈る」との願いを込めて祝金を贈りました。

学校祭

今年のテーマ
「4つの光が交わる時 今、始まる我らの挑戦」

7月10日～11日

第61回

学校祭が開催される

コーラス大会同様、学校祭についても須藤校長の一筆を引用させていただく。

一本の木から

「伝統の組織文化創造へ」

前庭に伐採を免れた一本の松がある。その木は、学校の境界線となる鉄の柵が木の分だけ途切れていて、挟まれる形で育っている。この木を残すために鉄の柵を分割したのは明らかだ。生徒通用門から東



伝統の木

角（かど）との間、自転車通路の脇にあるこの木の横を通るとき、いつも同じ事を思う。それは型どおりに鉄柵を廻らす事を優先しなかった人々の想いだ。「この木を切っちゃいかん」と言った人達がいたから、生き続ける事が出来た木。それを私は心の中で密かに「伝統の木」と名付けている。

さて、そんな前庭の木立の針葉樹の濃い緑と、広葉樹の新緑が混じりあった夏、61回目の学校祭が始まる。高校は3年一（ひと）サイクルだから、木のようにどんどん大きく成長する事はないが、絶えず新しい生徒達で、そこにしかない文化が創られる。集まるメンバーが同じ

ではないのに、組織文化の視点からみれば、毎年、同じ流れを持つ文化が創造される。ちょうど能や歌舞伎、落語のような伝統芸能と同形の文化が構築されている。

特に西高の学校祭が、娯乐的・お祭りの要素を排除し続けてきた点は、きつと伝統の力なのだろう。

「4つの光が交わる時 今、始まる我らの挑戦」のテーマの下、歴史を受け継ぎ、新しい時代を生き抜く西高独自の組織文化の創造を期待している。

「伝統の木」が、いつも青々としているように・・・（記・須藤 均）

行灯作成作業に使用するために校舎の裏にビニールハウスが12棟立っている。いづれから始まったのかは判らないが、これで雨の心配もな



作業用ハウス

く作業が出来る訳で、この方式だと大きさも決まると、雨による日程の遅れも無くなるので良い方法だと思ふ。

さて、天候に恵まれた中で学校祭は若さを滲刺と発散して終了しました。応援団、演劇等は昔ながらの組連合で行われ、メインの行灯行列は市内を練り歩きました。闇に包まれる夕刻に休憩所の花園公園を出発し、明りが入ると綺麗に彩られた行灯が夕闇にくっきりと浮かびあがりました。こうして伝統は受け継がれています。ファイヤーストームは昨今の環境問題の事情から行灯自体を投入する事が出来なくなりましてので材木などを積み上げて盛り上げています。この所では昔と随分様変わりをしました。これらを埋めるために花火大会を開催しています。いづれにせよ在校生にとっては濃密な2日間でした。

羽球部の井上監督、陸上部の伊藤監督の指導に選手たちの努力が加わり最良の結果が出ましたが、更に上を目指して後輩の活躍を大いに期待するものです。この会報が皆さんの所に届く時には結果は出ていますが、全国に深川西高校の名前を響かせて欲しいものです。



陸上 齋藤君

平成22年度 高体連・高文連空知支部大会等結果一覧

（全道大会出場一覧）

〔陸上部〕

男子	100m	優勝	齋藤 悠也 (3年)	
		6位	伊東 輝直 (3年)	
	800m	優勝	徳重 雅也 (2年)	
	1500m	3位	徳重 雅也 (2年)	
	5000m	5位	小西 貴士 (2年)	
	400mh	4位	山上 忠志 (3年)	
	走幅跳	優勝	齋藤 悠也 (3年)	
	円盤投	3位	松田 晋里 (3年)	
	やり投	優勝	長谷 克也 (3年)	
女子	100m	優勝	大鏑ひとみ (3年)	
	200m	2位	大鏑ひとみ (3年)	
	800m	優勝	沼田ゆきこ (3年)	
	100mh	5位	田中 有紀 (2年)	
	走幅跳	優勝	濱野亜里紗 (3年)	
	円盤投	3位	佐々木 茜 (2年)	
	やり投	2位	好川 沙希 (3年)	
	走高跳	2位	鹿角 美月 (1年)	
男子	4×100mR	優勝	伊東 輝直 (3年)・浅田 克将 (3年)	
			山上 忠志 (3年)・齋藤 悠也 (3年)	
	4×400mR	2位	伊東 輝直 (3年)・浅田 克将 (3年)	
			山上 忠志 (3年)・齋藤 悠也 (3年)	
女子	4×100mR	優勝	好川 沙希 (3年)・大鏑ひとみ (3年)	
			沼田ゆきこ (3年)・濱野亜里紗 (3年)	
	4×400mR	優勝	濱野亜里紗 (3年)・大鏑ひとみ (3年)	
			好川 沙希 (3年)・沼田ゆきこ (3年)	

〔男子バレーボール部〕

2位

〔女子バレーボール部〕

優勝

〔柔道部〕

男子 -66kg級 2位 和田 頼亨 (3年)

〔バドミントン部〕

男子 団体	2位	
女子 団体	優勝	
男子 シングルス	3位	清水 勝貴 (2年)
	4位	内山 創平 (3年)
男子 ダブルス	3位	内山 創平 (3年)・清水 勝貴 (2年)
女子 シングルス	優勝	牧野 怜奈 (1年)
	2位	本田恵利奈 (2年)
	3位	大塚 葵 (1年)
女子 ダブルス	優勝	牧野 怜奈 (1年)・大塚 葵 (1年)
	2位	安藤 理奈 (2年)・本田恵利奈 (2年)
	3位	山田 唯衣 (3年)・五十嵐七海 (3年)

〔卓球部〕

男子 団体	2位	
男子 シングルス	2位	大西 健太 (2年)
		中村 敦洋 (3年) (全道大会出場権獲得)
		青木 柊人 (2年)・林 和樹 (2年) (全道大会出場権獲得)
男子 ダブルス		

〔テニス部〕

女子 シングルス	優勝	楡木 葵 (3年)
女子 ダブルス	優勝	熊田あかね (3年)・楡木 葵 (3年)

〔放送局〕

研究発表部門 (全道大会出場権獲得)

平成22年度 全道大会結果一覧

〔バドミントン部〕

男子 団体	3位	(北北海道)
女子 団体	優勝	
女子 シングルス	優勝	牧野 怜奈 (1年)
女子 ダブルス	優勝	安藤 理奈 (2年)・本田恵利奈 (2年)
		(北北海道)

(女子団体・女子シングルス・女子ダブルスが全国大会出場)

〔陸上部〕

男子 走幅跳	2位	齋藤 悠也 (3年)
女子 走幅跳	7位	濱野亜里紗 (3年)
4×400mR	8位	(男子走幅跳が全国大会出場)

同窓の夕べ 開催のおしらせ

第十四回「同窓の夕べ」を次の通り開催致します。

日時	平成二十二年九月四日(土)
開演	午後六時 (吹奏楽部の演奏)
開会	午後六時半
会場	プラザホテル板倉 (深川市三条六番)
会費	二,〇〇〇円

実行委員会は十三期、二十三期、三十三期、四十三期、五十三期が担当です。実行委員長は十三期の佐藤豊秀さんです。今年も二百名以上の参加者になりそうです。

プラザホテル板倉は同窓生にとって楽しい一時の場所になるでしょう。毎回ジャンケンには盛り上がり最高です。他にも楽しいイベントを沢山用意しているようです。美味しい豪華な料理を味わいながら初秋の一時をすごして頂けたらと思います。特に未参加の方、又、遠方の方でも都合が付きましてこの日に日程を合わせて参加して戴けたら嬉しいですね。

多くの同窓生の参加をお待ちいたしております。

第十二回 同窓の夕べ開催風景

第十三回「同窓の夕べ」が平成二十一年九月十二日に参加二二〇名を得て盛大に開催されました。世話人は末尾「2」の期で構成。三十二期三上さんの進行で開始。開会に先立って例年通り吹奏楽の演奏から始まりました。ステージが狭く後輩たちも窮屈そうでしたが、楽しく、しかも力強く頼もしくノリノリでオープニングを飾ってくれました。

板倉実行委員長の卒業時のユーモア溢れる挨拶、大西会長より参加へのお礼、須藤校長よりは学校の近況を報告して頂き、滝川支部「北斗会」会長・境 和一さんの音頭で乾杯に入りました。毎回のビュッフェ形式のお料理でお腹を満たし美味しいビールでのを潤し参加者一同満足。

同窓会ビンゴは二十二期、ジャンケンボンは三十二期、お楽しみ抽選会は四十二期がそれぞれ担当して夕べを盛り上げてくれました。アツビールコーナーでは岡部さんから桜の植樹のその後の状況報告がされていよいよ宴も終盤に入り、加藤廣一さん指揮、山岸久仁子さんのピアノ伴奏で全員高らかに校歌を歌いました。

最後の締めでは次期実行委員長・佐藤豊秀さんの音頭によって盛会の中、夕べは閉会となりました。



乾杯
境 和一 北斗会会長



会場風景



須藤校長挨拶



料理の数々



32期担当のじゃんけん大会



42期担当の抽選会



締めは佐藤豊秀次期実行委員長



旧中学校歌斉唱



22期担当のビンゴ



なつかしの映像



今回の映像は平成20年12月に36回生・柴木雅彦さん（秋田市在住）からご提供をいただきました。今回の画像はHPにも掲載しています。HPの方は枚数も多いのでそちらの方はもっと懐かしんで頂けると幸いです。

今から27年前のアルバムの写真をスキャンしたのですが大変に良い仕上がりになっていますので何点かご紹介します。



再度の 資料収集の お願い

次回、開校八十周年記念を迎えるまでには同窓生のお手元にある在校当時の資料を収集したいと考えています。年数を経ると貴重な資料も散逸して確保が困難になるからです。ご提供いただけるものがあれば是非お願いしたいと思えます。お借りできるものはコピーをしてお返しいたします。

中でも学校祭やコーラス大会などの行事のプログラム、各クラブや部活の機関紙などです。特に文芸クラブの「うまごやし」などがあると良いですね。

六十年記念誌、七十年記念誌などに資料の明細が出ていますので参考にさせていただければ幸いです。どんなものでも構いませんのでお手元に資料がありましたら是非ともご協力をお願いいたします。

創立20周年記念誌・復刻版頒布のお知らせ



本校の最初の記念誌である「創立20周年記念誌」が昭和33年9月6日に発行されました。

前回、同窓会会報「湧雲」を全会員へ発送するにあたって復刻版の頒布事業をお知らせいたしましたが、残部が多少残っていますので再度ご案内いたします。20周年記念事業協賛会と生徒会とが編集委員となって編纂発行されたもので現存する部数も少なく資料としても貴重なものと考え、一昨年復刻版の発行に至りました。作成に当っては旧中4回生の前田正太郎氏所蔵の記念誌を提供いただき再販にこぎつけました。少々高めになりますが印刷部数が少ないのでご了解をお願いします。

50年前の記録に目を通してみませんか？

(B5判 102ページ)
頒布価格・郵送料込み **1,900円**

入手希望の方は下記口座に郵便振込にてお申込みください。



校歌・学生の歌・逍遙歌のCD頒布のお知らせ



新バージョンは今春の卒業生から順次記念品として贈呈しています。

又、同窓生の皆さんの中で入手希望の方が居られましたら郵便振込にてお申しただければ送料込みの1,000円にて頒布いたします。

入手希望の方は下記口座に郵便振込にてお申込みください。

口座番号・02770-2-45435 加入者名・北海道深川西高等学校同窓会

新制高校1回生（旧中6回生）の中村隆志さんからご提供を受けています。本当に貴重な資料ですので今回は表紙だけ紹介します。



古文書

昭和18年4月25日発行
開校5年記念誌「報国団誌」創刊号
A5判 134ページ

昭和23年7月20日発行の
創立十周年記念号「会報」
A5判 40ページ ガリ版印刷

同窓会林

湧雲の白樺

今年度の現状



ヤチブキ

快晴の五月十日に同窓会林の現地視察を森林組合の協力を得て現地で行いました。同窓会林全体の九割を占める自然林のほとんどが樺の樹のようです。今年度は国の事業に乗って間伐事業、作業道設置の事業を行う予定です。環境重視の世界の流れの中で森林は守るべきものの流れが大勢を占めています。国も温暖化防止、雇用の拡大など様々な要件で事業を見直しています。GPSで隣地境界を確認し立ち木にピンクのテープを取り付ける作業を半日かけて行いました。今回で

とんだが樺の樹のようです。今年度は国の事業に乗って間伐事業、作業道設置の事業を行う予定です。環境重視の世界の流れの中で森林は守るべきものの流れが大勢を占めています。国も温暖化防止、雇用の拡大など様々な要件で事業を見直しています。GPSで隣地境界を確認し立ち木にピンクのテープを取り付ける作業を半日かけて行いました。今回で



シナの巨樹

に使用したいと思っています。他の樹種については今年度、間伐作業時には樹種によってとは言う事で業者と間伐未処

西側の一部を除いて全周踏破致しました。さすが広いですね。今回の収穫は最東端の隣地境界線の標識確認が出来た事。かなり大きなエゾヤマザクラの樹を確認できた事。沢一面のエゾノリュウキンカを目の前にした事。巨木のシナの樹を確認した事などです。まだまだ細部には確認すべき要素はあるので業者と詰めたと思います。又、スキー場コース外の植樹会場の側でエゾヤマ桜の開花を確認。すぐ下部でシウリ桜の開花も確認しました。特にシウリ桜については木の周りに苗が三十本ほど確認しました。今後の植樹に使用したいと思っています。他の樹種については今年度、間伐作業時には樹種によってとは言う事で業者と間伐未処



境界線標識

後は交渉の余地はあるかと・・・。湧雲の白樺は老齢木となり、生きているものの枝もあちこち雪の重みで影響を受けています。生きとし生けるものの定めでこれも致し方ないと思います。しかし、今年も芽は吹きましたが枝折れで少し小さくなった気がします。幹は太いのです・・・。

【前庭の現状】

▼前庭の2本のユリノキは元気に育っています。花が咲くのがいつごろかはわかりませんが楽しみに待ちたいものです。別の所ですが深川でも二年続けてユリノキの花を見ました。早く花が咲いて欲しいものです。この木は寒い風が当たると駄目かもしれません。風上に別の木を植えてユリノキを守るように植栽するのがよさそうです。

▼年度別に順次更新していく作業が必要となってきました。長期計画の策定も必要かと思えます。このことも委員会の中で詰めて行きます。前回も書きましたように道道の通行車両からの騒音や夏の日照からの緩和、精神的、視覚的にも緑豊かな教育環境が必要です。校歌の歌詞には「正義に白き白樺は、自由の空にそそりたつ」と歌われ欠かせない樹木ですが、老齢化は免れません。現在は補植もしていないので先々はなくなりそうです。いよいよ補植しなければなりません。



桜保護作業

どろやなぎ

(編集後記)

▼同窓会会報の今後に向けて昨年、同窓生全員に会報を配布して今後への感謝を得ることが出来ました。ご協力戴いた千名を超す同窓生の皆さんに支えられてなんと今年も会報第二号が発行出来ました。ご協力ありがとうございました。

しかしながら三号以降は又、皆さんに応援いただかなければ発行出来ません。その為にはご協力いただける内容にしなければ肝に銘じていますが、同窓の動向や学校の現状、在校生の活躍が幾らかでも同窓生に伝わっているのかな？という心配ばかりです。継続して発行していくためには、どのようなシステムがいいのか、この会報発行事業は緒に付いたばかりで確立されていません。色々ご意見をいただきたいと思います。

考えられる展開としては、まずは会報の内容の充実を図ることで継続購読者を増やしていくことが必要だと思えます。次回三号発行時では、もう一度同窓生全員に会報を送付し、二千人以上の購読者の確保を目指したい。部数が少ないと印刷経費が増しますから発行部数を確保することと継続出来るのではな

り協力者の定着を図っていくなどの方法も考えています。

▼昨年は過ごしやすいい夏でした。深川も真夏日なし。六月の天候不順、七月の日照不足に夏らしい夏を体験出来ませんでした。結局、作柄不良で年を終えました。さて、今年の夏は若干様子が変わり六月に数回の真夏日を経験しました。六月としては観測史上初だそうなんです、1991年が今年に近い気候だったそうです。まあ、暑い夏になりそうです。出来秋が楽しみです。

▼今号は特別委員会の桜特集号になりました。咲いた桜を見て苦労が報われた気がしたのと、この思いを同窓生の皆さんにもお分けしたかったからです。数個ではふもとから見たときにはピンクにはみえませんが間近で見たときは心も桜色に染まりました。

▼継続は力なり。学校祭は六十一回、コーラス大会は五十四回も継続しています。会報の発行は手刷りの十号を含めて今回がまだ十二号目にしかなりませんが、積み重ねていくことが大切なのだと思います。会報の発行がいつまでも続くことを願って・・・。(溝口・記)

ホームページ紹介

同窓会ホームページ

<http://mypage.fukanavi.com/nishikou/>

同窓会紹介サイト

深川地域ナビ「深ナビ」での

モール情報にアップしています。

<http://mypage.fukanavi.com/>

から入って、ジャンルの教育・学校・高校

西高校の紹介ネット

<http://yubitoma.sphere.ne.jp/>

現在登録者 400名

理木を打ち合わせたいと思います。修練道場跡地は今調査でも同窓会林地からわずかに外れている事が確認されました。現在は市有地ですので今



シウリサクラ



シウリサクラ拡大

同窓会会報決算書 5月6日現在

収入の部

項目	金額	備考
協力金	2,109,000	1,049件
合計	2,109,000	

支出の部

項目	金額	備考
郵便手数料	116,040	
印刷・発送他	1,692,992	
合計	1,809,032	

収入	2,109,000
支出	1,809,032
残金	299,968